

1 自己評価及び外部評価結果

[事業所概要(事業所記入)]

事業所番号	4070901956		
法人名	医療法人 ながら医院		
事業所名	グループホーム月華		
所在地	福岡市博多区比恵町12番21号		
自己評価作成日	平成23年1月12日	評価結果確定日	平成23年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

[評価機関概要(評価機関記入)]

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成23年2月9日		

[事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)]

入居者の残存機能の維持ができるよう、個人に合ったケアを行い、その人らしい毎日が過ごせるように、寄り添い、笑顔、安らぎのあるケアを実践している。 母体の医院との密接な協力体制が出来ており、緊急時に迅速な対応を取る事ができる。また、両ユニットには、看護職員を配置して健康管理を行っている。看取りのケアについては、研修を行いながら、スタッフ全員で取り組んでいる。

[外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)]

母体病院が5年前に開設した事業所であり、医療連携や個別支援、職員配置と研修指導体制の充実等に力を入れている。利用者は病院や老健、他のグループホームからの入所等、より本人にあった事業所を探して利用を決めた事例が多い事も特徴的である。特に本年度は、最期まで本人らしく暮らしたいとの意向に応える形で、入所から看取りまでわずか一ヶ月半という支援事例があった。看護師による医療ケアと同時に、外出やイベント等にも参加した。食欲が落ちるなか好物のカレーは最期まで自力で食べられ、家族や職員が見守る中旅立られた。医療法人を母体とする事業所は多いが、対処のための医療支援ではなく安心して暮らせるための医療ケアとQOLを維持、向上する為の個別支援が実現している数少ない事業所である。また併設する地域交流スペースを活用した地域交流の充実にも取り組んでいる。今後も「月華」ならではの支援の充実と地域・行政を巻き込んだ展開を大いに期待したい。
--

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。)

自己評価および外部評価票

ユニット名: 月

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を館内に掲示している。会議の時に理念について話し合い、日々の支援を通じて理念に基づいたサービスの提供ができるように取り組んでいる。各自名札の裏に遂行している。	開設当初に職員全員で話し合い、利用者本位の生活の支援と地域密着の視点を盛り込み事業所の理念を作り上げている。事業所内での掲示や会議時の確認の他にも、理念を具体化した接遇目標をつくるなど、理念の実践と反映に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。町内会の清掃や夏まつりや近所の幼稚園の運動会などに参加している。ホームでの行事に地域のサークルの方々に定期的に参加してもらい交流に努めている。	町内会の清掃や草取り、近隣の幼稚園の運動会の見学や夏祭り等に参加している。また併設する地域交流スペースで法人職員が講師となり転倒予防教室や予防教室を開催したり、職員が地域ボランティア活動に参加する等、相互に交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1階の地域サロンで介護予防教室や転倒予防教室が定期的に行われているため、職員が参加している。また地域のサークル活動の集まりが毎週開催され、スタッフも参加し、地域の方々と話し合う良い機会になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス内容や評価への取組みについて報告し、地域の方々とモニタリングし、意見交換を行ってサービスの向上に努めている。	地域や家族等を招いて開催している。会議では、事業所と利用者の近況報告、研修活動の紹介や非常災害対策の協議や意見交換等がなされている。	隔月開催に向けての取組みと同時に、現在欠席が続いている地域包括センターや行政職員の参加が実現すれば、協議内容や質疑応答等、幅広い意見交換の場になることと思われます。今後の働きかけを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営やサービス支援、入居に関する事について、行政担当者に連絡を取り相談を行っている。	支援についての質問や、福岡市主催の研修参加等を通じて連携する機会を確保している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い、拘束の理解に努めている。玄関は、開錠しており、入居者の様子を細やかに見守っている。拘束しない安全で自由な暮らしの取り組みを日々考えながら行っている。	事業所内の年間研修計画に位置付け、スピードロックや行動制限等、身体拘束について話し合う機会を設け、職員全体で啓発に努め、実際の支援の中での拘束廃止に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、内容を職員に伝達する事で職員の知識向上、理解に努めている。更衣や入浴の際には、利用者の変化、ボディチェックを行い、虐待が見過ごされないように注意を払っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度についての研修を受け、報告会を兼ねた勉強会を行い、職員や家族に理解してもらえるように努めている。	内部研修、外部研修、家族会の年間計画に位置付け、制度の周知や学習する機会を確保している。契約時には必ず制度の概要並びに状況に応じた活用手順等についても説明している。この過程を経ての活用事例が見られた。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、家族が納得を得るまで説明する。分かりやすく事例を交えたり、話しやすい雰囲気を作り、理解を得るように努める。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱の設置を行い、面会時や家族会を利用して、家族からの意見や思いの表出に努めている。意見が出た時は、管理者へ報告を行い、苦情対策委員会で検討し、今後のサービス反映に繋げている。	日常的なかかわりや、家族会、運営推進会議や面会等を利用して、意見や思いの表出に努めている。意見や苦情については、内容に応じてその場での回答や職員会議で検討した後に回答するなどの取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や個人面談などで運営について意見を聞く場を設けている。	適宜実施している個別面談や、毎月の職員会議で、意見やアイデアを提案する機会を設けている。この過程を経て昨年度、職員の増員を図り、胃ろう等医療ニーズが高い利用者への個別支援が可能となり、医療連携に特化した支援体制が実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務では、希望休日を設け、職員の勤務体制に無理がないようにしている。職員の意向を重視しながら、資格取得に向けた支援も行っている。		
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用については、年齢や経験の有無については、制限を設けていない。面接時に職場体験を実施し、本人の意欲や理念への共感、夜勤を含めて勤務が可能か考慮し、本人の意思を確認した上で採用を決めている。プライベートでも充実が図れるよう勤務調整を行うなどの支援体制を行っている。	職員採用については、特に制限は設けず、面接後に職場体験を実施し、理念への共感や人間性、夜勤も含めての勤務が可能か否か等を重視している。採用後は日常のケアや各委員会活動を通じて職員の特技や長所が活かされるように取り組み、スキルアップや資格取得を支援している。	様々な経歴や幅広い年代から基準数以上の職員を採用し、離職も少なく安定した職員配置となっています。現在は不在の男性職員が加われば、同性介助や災害復旧、日常の支援等においても幅が広がると思われます。今後の採用計画でのご検討を期待します。
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者虐待防止法や成年後見制度、高齢者の権利擁護及び人権学習について、内部研修や院内研修に位置付け、入居者への対応や尊厳など日々の業務に反映できるようにしている。	高齢者にまつわる虐待防止や権利擁護等の勉強会に加えて、毎月、事業所会議にて日々の支援事例をはじめ、様々なテーマを取り上げ、人権の尊重や啓発に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関して、職員の均等な参加の機会を確保できるように支援している。受講後は、報告会を行い、知識の向上や共有に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属し、研修などに参加している。他事業所との情報交換など交流の機会を通じてサービスの向上に活かすようにしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問時の情報や担当ケアマネジャー等からの情報を聞いたうえで家族・本人の希望を取り入れ、安心して介護を受けられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込み時に必ずホームの見学をしてもらい、来られた時によく話を聞くようにしている。入居申込書に希望や要望の記入欄を設けている又いつでも電話相談に対応できる体制づくりも行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の生活環境や身体状況などの情報収集を行い、必要としている支援を見極めるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や炊事を一緒に行うことで馴染みの関係作りを行っている。入居者との会話の中から昔の智恵などを学ぶことも多くある。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時を利用し、本人の状況を伝えている。状態の変化があった時は、その都度連絡を取り報告している。年間行事予定表を渡し、入居者と触れ合う機会を作り、共に支えていく関係を築くように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近隣の方々の面会も行っている。散歩や外出の際も希望の場所や馴染みの場所への外出介助も行っている。	利用者が携帯電話で近所の商店に配達を頼んだり、家族宛てに年賀状を書く等、可能な限り利用者の趣味や習慣等が継続できるように支援している。また、退去後の元利用者や家族の訪問、手紙のやり取り等の交流も見られた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の性格、入居者同士の関係などを把握して、席を配置したり、孤立しないようにしている。隣のユニットで体操やレクリエーションをしたり、入居者同士が関わる時間も大切にしている。家事や炊事も入居者同士が協力して行えるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も本人や家族からハガキをもらったり、お茶を飲みに来られたりしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との関わりの中や家族の面会時に利用者ひとりひとりの希望、意向の把握に努めている。また、センター方式を使用し、入居者の言動や潜在能力にも着目して記録し、情報を共有している。	センター方式を採用し、関係者や日々のかかわりを通じて、利用者一人ひとりの希望や家族の意向の把握に努めている。またカンファレンス等、職員全員で情報提供を行いながら、利用者毎の希望の実現計画を作成し、介護計画書に反映させながら実現にむけて支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントを実施し、本人や家族の会話の中から情報を聴取している。職員は、介護記録やアセスメントを読み把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々入居者を観察し、心身の状態や残存能力などを申し送りやケアカンファを通じて把握している。入居者の状態変化のある時は、その都度ケア方法を確認し、早期に対応している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が利用者や家族の意見を把握したうえで、モニタリングを行ない介護計画を作成している。利用者本位の介護支援や残存能力の維持など本人のニーズが反映されるようにカンファレンスにて協議を行っている。	担当職員と計画作成担当者が、本人の希望や家族の意向等をまとめ、ケアカンファレンスにて職員全体で協議し、利用者本位の介護計画を作成している。毎月のカンファレンスにて、モニタリングや支援手順の確認を行い、6ヵ月毎及び状態変化時の評価・見直しを行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にその日の様子や状態変化などを記載し、申し送りを行っている。また、気づきや家族からの要望などは、ユニット毎にノートに記載し、情報を共有して介護計画に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族との時間や関わりが持てるように柔軟な対応を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が電話をかけると、近所の商店街の花屋さんや八百屋さんが配達してくれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に主治医の継続と協力と協力医療機関の利用についての確認を行い、本人、家族の意向に沿って支援している。訪問診療は、月2回行っている。緊急受診の際は、看護職員が付き添いを行っている。	医療機関は本人、家族が選択している。協力医療機関は、リハビリ科や認知症専門医も所属しており、受診支援や往診、相談や助言等も、利用者の状況や家族の要望に応じて、柔軟に対応している。看護師が常駐しており、医療ニーズの高い利用者にも対応している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤している。日常生活の中でとらえた変化や異常を的確に判断し、必要に応じて病院受診し、適切な看護が受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、家族と連絡を取り状態を把握している。退院後すぐ対応ができるよう医療連携室と連絡を取り話し合いや情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化した場合の対応の方針の説明を行い、同意をもらっている。入居者の状態の変化に伴い、段階的に家族と話し合い、今後の意向の確認やケアの方針を検討し、共有しながら支援できるように取り組んでいる。	契約時に予め重度化の支援について事業所として可能な対応や方針を説明し、家族の意向と同意を画面化している。利用者の意向はセンター方式等に記録し、関係者で段階的に協議しながら方針や情報を共有し支援している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故の対応について定期的に研修を行い、実践できるように努めている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、年に2回災害を想定した、避難訓練を入居者も参加して行っている。	年2回の避難訓練には、利用者も参加し建物全体で避難経路の確認や避難器具の点検等を実施している。本年度はスプリンクラーを設置し設備面の充実に取り組み、非常災害時の協力体制については、運営推進会議等で地域へ協力を図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格や生活背景を把握し、尊厳を傷つけないように、言動や態度には気配りを行っている。	内外の研修参加に位置付け、事業所内で接遇委員会を設け、対利用者、職員同士、関係者との対応についてそれぞれ具体的な目標をあげながら実践に努めている。チームワークを保ちつつ馴れ合いを防ぎ、質の向上に努める為の職員の自発的な取り組みが見られた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや訴えができるようなペースの関わりを持っている。わかりやすい言葉で説明を行い、自分の意思が決定できるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションへの参加は、本人の意思や尊厳を尊重している。できるだけその方の好みや特技を考慮した支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月希望者には、訪問美容を利用してもらい好みに応じてカラー・カット・パーマ等を行っている。更衣については、本人の好みを聞きながら選んでいる。外出時には、化粧をするなどその方に応じた支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の身体能力に応じて調理・配膳・後片付けなどを職員と一緒にやっている。おやつ作りも毎月入居者が好まれるメニューを選び、一緒にやっている。	食事は主に法人の厨房で調理し、配膳や後片付け等を職員と利用者で分担している。月に数回は軽食やおやつづくりを楽しんでいる。また、1時間弱の時間をかけて、食事介助の支援等、経口摂取を維持するための個別支援も見られた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は、定期的に行っている。摂取量が少ない方には、チェック表を使用している。嚥下の悪い方や食事摂取量の少ない方には、補食として総合栄養剤を飲用している。また、本人の好まれる飲み物も提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後口腔ケアを行っている。その方に応じて舌ブラシや綿花、口腔ケア用スポンジなどを使用している。義歯は、每晚洗浄剤につけている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握するために、毎日チェック表を記入している。排泄の自立を少しでも維持するためにもその方に応じた時間誘導を行っている。	排泄パターンや介助方法の手順書を作成し尊厳やプライバシーにも配慮しながら自立にむけて個別対応を行っている。認知症の進行に伴い排泄動作自体が難しい事例についても、機能的、精神的の両面から主治医と検証して対応する支援が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は、バランスのとれた物を提供し、栄養の偏りがないようにしている。腸の動きを促すために毎日の体操や散歩を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週の2～3回入浴できるように支援している。入浴を好まれない方タイミングを見計らい、適宜声かけを行っている。入浴剤やホームに咲いたバラなどを浴槽に浮かべたり、入浴を楽しんでいただけるようにしている。1階には、特殊浴槽を設置している。	毎日入浴できるように準備し、無理強いすることなく、定期的な清潔保持の機会を確保している。二人介助や特殊浴槽を設備し医療ニーズの高い利用者への対応や、スキンケア等、心身状況に応じて利用者毎に対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状態に合わせて、休憩時間や就寝、起床時間を考慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的・用法・副作用などは、入居者の薬管理簿にまとめてわかるようにしている。その日の服薬は、ホワイトボードに貼り付け、飲み忘れがないように確認している。服薬は、事故を防ぐために2人で名前、用法を口頭確認し支援している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の栽培に取り組み、長期間において水やりや草取り等一緒に行う事で、喜びや楽しみを見つけ、生きがい作りに取り組んでいる。また、レクリエーションや編み物等、個別に楽しめるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合った外出計画を立てて取り組んでいる。また、地域の商店街、パン屋、買物、散歩等個別の外出支援も行っている。	花見や行楽など定期的に計画立てての外出のほかに、日常的な散歩や買物等、家族とも連携しながら対応している。また、利用者の以前の住いを訪ねるなど、地域密着型サービスならではの個別支援も見られた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に預りとしているが、本人の希望がある時は、家族に承諾をもらい、少額本人管理で持たせている。買物の希望がある時は、同行して本人が支払いができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された時は、ホームの電話や入居者の個人携帯を使用して話をしてもらっている。レターセットは常備している。毎年家族宛の年賀状を入居者にかいていただけるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体に和を感じさせ、明るい落ち着いた雰囲気での作りになっている。屋内は、バリアフリーで畳みの空間もある。所々に観葉植物を飾り、壁や一角には、季節を感じさせる装飾を入居者と一緒に作成し、展示している。	一階の玄関は植込みや照明で演出され、自然採光と、暖色系の照明、ウッド材と和風モダンを取り入れ、温かみのある空間となっている。畳スペースも広く、ゆっくりくつろげるリビングであった。また、歩行器や車イスでも使用しやすいような動線が十分確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファは、家族と話をされる時に使用されている。畳のスペースでは、入居者が洗濯物をたたんだり、足を伸ばしたりくつろぐ場所となっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談の上、使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込み、見慣れた物の中で居心地よく過ごせるようにしている。また、家族の写真なども飾り、安心感を持っていただくようにしている。	居室はフローリングでベッドを設置し、利用者・家族が相談して、馴染みの調度品等を持参している。家具の配置等も利用者の心身状況や生活習慣を考慮し、ナースコールの位置を調整する等、安全かつ快適に過ごせるように配置されていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは、可動式の手すりとポールを設置安全面に配慮している。居室の表札やトイレ、浴室の表示は、入居者の目線に合わせやや低い位置にしている。入居者の表札は、居室ごとに絵を替え、ぬいぐるみを飾ったりわかりやすくしている。		

V. サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				